

2023年度 (令和 5 年度)

学校評価自己評価表

神辺	中学校区	校番 78	福山市立 中条小 学校
最終更新日		2023年(令和5年)4月14日	

I 福山市

ミッション 福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。
ビジョン 「福山100NEN教育」の基本理念のもと、各中学校区・学校が「21世紀型“スキル&倫理観”」の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。

II 中学校区	前年度学校関係者評価の主な内容 ○多様な児童生徒に対して個別最適な学びと協働的な学びの充実を図りながら、「子ども主体の学び」全教室展開に向けた取組を進めている。 ○異学年交流等、望ましい集団づくりに向けた教育活動を進め、児童生徒の自己肯定感や自己有用感を高める工夫をしている。 ●すべての子どもたちが「学びが面白い」と実感し、子どもの居場所づくりの取組を進めてほしい。	児童生徒の現状 ○自分で目標を立て、友達と学び合いながら「考える、選ぶ、決める」経験を積み重ねることにより、「学びが面白い」と実感する児童生徒が増えてきた。 ○自分たちが学校を創る主体となり、試行錯誤しながら創意工夫することを楽しむ児童生徒の姿が見られる。 ●安心して学校生活を送ることができる環境づくりに継続して取り組んでほしい。	育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”) めざす子ども像 (義務教育修了時の姿) 中学校区として統一した取組等	コミュニケーション 人としての思いやり 共に学び、共に支え、未来を切り開き、地域・社会に貢献する生徒 ○児童生徒が、授業での学びを日常の様々な場面で活用し行動できるようになる。 ○児童生徒が、自己肯定感・自己有用感を高める。 ○校種・教科・領域をこえた合同研修
---------	---	---	---	--

III 自校	ミッション 地域や保護者の信頼に応え、地域住民から愛される学校を地域と共に創造する。	学校教育目標 自分を磨き ともに学び支え合う児童の育成	現 状 〈児童生徒〉 ○「思考・判断・表現」の位置付けを明確にした単元構想や個別最適な学びと協働的な学びとの双方向での学びを進めることにより、学びにおける児童の肯定的評価が伸びてきている。⇒80.8% ○授業や行事においてリフレクションに取り組むことで、自己肯定感や自己有用感が高まり、学習や生活に生かそうとする児童が増えてきている。⇒85.7% ●自分の課題や追求してみたいことを見つけることに苦手意識をもつ児童が多い。⇒肯定的評価73.1% 〈授業〉 ○育成する資質・能力に係る教科横断的な単元構成を考え「思考・判断・表現」の位置付けを明確にした授業づくりについて意識が高まってきた。 ●リフレクションを生かすことができる個別最適な学びと協働的な学びにおける授業改善に繋がっていない。	育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”) めざす子ども像 1・2年 3・4年 5・6年 テーマ 研究 内容等 めざす授業の姿	A コミュニケーション B 人としての思いやり C課題解決力 A 人の話をしっかり聴くことができ、自分の考えを順序に気をつけて伝えることができる。 B 自分や友だちのがんばりやよいところを見つけることができる。 C 思いや願いの実現に向けて、自分の課題をもち、いろいろな方法を使って考えることができる。 A 自分の考えをもち、根拠をもとにわかりやすく伝えることができる。 B 相手の立場になって考え、お互いのよさを認め合うことができる。 C 見方や考え方を広げながら課題を設定し、見通しをもって課題を解決することができる。 A 友だちと自分の考えの相違に気をつけて聴き、筋道を立てて話すことができる。 B 一人一人の個性を理解し、認め合うことができる。 C 物事を多面的に見たり考えたりして課題を設定し、整理・検討・修正し、よりよい解決方法を考え、実行することができる。 主体的に学ぶ子どもの育成～学びを調整するリフレクションを通して～ ○学びに向かう態度や学びを調整する力を涵養していくリフレクション力の高まり ○特別支援教育を生かした個別最適な学び ◇リフレクションを通して自己認識・自己調整・他者理解が深まる授業 ◇個別最適な学びと協働的な学びの双方向での学びの中で自らが学びの主人公として追求していく授業
--------	---	--------------------------------	---	---	--

Ⅳ 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

Ⅳ 目標・取組及び評価指標等の設定と評価							福山市立		中条小		学校				
年 目	中期経営目標	重 点	分 類	短期経営目標	目標達成に 向けた取組	評価指標	中間評価（10月1日）				最終評価（2月末）				
							□指標に係る 取組状況	プロセス 評価	達成 評価	改善方策	□指標に係る 取組状況 ◎短期（中期）経営 目標の達成状況	プロセス 評価	達成 評価	総合 評価	改善方策
2	○「子ども主体の び」全教室展開 ～学びを調整するリ フレクションを通し て～	★	継 続	リフレクションを通 して学びを調整する ために、教材の本質 を捉え、児童の実態 をふまえた授業づく りを行う。	①カリキュラムマネ ジメントの推進 ・「思考・判断・表 現」の位置づけを明 確にし単元計画を立 てる。 ・育成したい資質・ 能力を基に教科横断 的な視点で相互の関 連付けや横断を図る 手立てを考える。 ②個別最適な学びと 協働的な学びの実現 ・児童理解に基づく 支援を行う。 ◇ICTの効果的な 活用を進める。 ◇学びの自己調整力 を身に付けられるよ う、リフレクション の質を高めていく。 ◇学び合う力を高め る協働的な学びを実 践する。 ③児童の運動意欲・体 力の向上 ・学期に1回は、体育 の授業改善の視点に 立った授業交流を行 い、さらなる授業改善 に取り組む。 ・学校における課題種 目を設定し、体力の向 上が図れるように児童 会と連携した企画を計 画し、異学年と交流し ながら、運動に親しん だり、楽しみながら体 力向上を図れるように	○児童アンケートや 職員アンケートで学 びにおける肯定的評 価を80%以上。 ○学力の伸びを分 析、検証していく場 の設定 ・年間を通して検証 する場を設ける。 ・学習方略など非認 知能力についての研 修を行い、学び合え る場を設定する。 ・学力調査等正答率 40%以下の児童の割 合を前年度以下。学 力の伸びがある児童 を前年度以上。 ○児童アンケートで 「体育の授業が楽し い」と答える児童を 95%以上。「運動 やスポーツを全くし ない」と答える児童 を10%以下。									

○望ましい集団づくりの実現 ～自他への理解～		継続	児童同士、地域や専門家等との関りを通して学び合い、自己及び集団のよりよいあり方について考える児童の育ちを支援する。	①リフレクションの更なる充実 ・リフレクションの意味づけについて指導者の共通認識を図りクラスや学校全体で共有することを継続し、望ましい集団づくりの実現に向けて児童自らが考えられるようにする。 ・一人一人の児童の言動をより丁寧に見取り、指導者と児童間に加えて、児童相互で意味づけ価値づけを行えるよう機会を設ける。	○児童アンケートで、自己肯定感・自己有用感に関する肯定的評価を85%以上。 ○児童のリフレクションを分析し自他への理解が深まっていると捉えることができる児童を80%以上。		3	3						
○信頼される学校づくり ～学ぶ実感・やりがいの実感～		継続	教職員のやりがい・充実感の向上を図る	①子どもと向き合う時間の確保 ・子どもと向き合う時間の確保につながる業務改善の具体に取り組む。(下校指導・会議の時間厳守等) ②カリキュラムの交流時間の設定 ・カリキュラムマネジメントの交流の時間を設け、効果的な学びを推進していく。 ③学校教育活動に対する保護者や地域の方の思いや意見の把握 ・学校外からの感想や意見を把握する工夫を行う。	○教職員の時間外勤務時間月45時間未満を100%。 ○教職員アンケート「『子どもが自ら学ぶ』授業づくりにあてて時間がある」,「充実感とやりがい」[個性が認められている]における肯定的評価を90%以上。 ○保護者アンケート「満足度」90%以上。									

[プロセス評価の評価基準]

評点	評価基準
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。

[達成評価の評価基準]

評点	評価基準
5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。
4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。
3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。
2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。
1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。

[総合評価の評価基準]

評点	評価基準	
5	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	40%未満の達成度	目標を達成できなかった。